

事業の背景・目的

蒜山地域は、大山隠岐国立公園の一部を構成しており、草原景観をはじめ豊かな自然環境を有している。特に、種の保存法に指定されているフサヒゲルリカミキリをはじめとする昆虫や、岡山県の希少野生動植物に指定されているサクラソウ等、この蒜山地域の草原に依存するものが多く存在することが知られている。しかしながら担い手が不足等により草原が放棄されて、生物多様性上の危機が生じている。本事業では、自然再生協議会の設立を目指し、これまで蒜山の自然環境に関わる多くの団体や個人が連携、協議しながら、草原をはじめとした二次的自然の再生をおこなうための仕組みづくりを行い地域の自然再生と地域振興の両立を図ることを目的とする。

事業の内容

事業①協議会の組織化

協議会の組織化にむけて、有識者へのヒアリングを実施した。これまでに蒜山の湿地や草原の保全に関わる鳥取大学農学部の日置教授や重井薬用植物園の延長の片岡氏、フサヒゲルリカミキリの保全に関わる日本チョウ類保全協会理事の中村氏など、総勢15名ほどの方にヒアリングを行った。多くの方から資料及び情報提供をいただいたほか、協議会への参画について合意を得られた。一方で、協議会の組織化のための説明会はコロナ禍のため実施できなかった。

事業② 自然環境調査

蒜山地域の自然環境に関する資料を約60点収集・整理したほか、有識者と協力して、哺乳類、チョウ類、植物相について調査を実施した。



事業③ 全体構想の策定

有識者へのヒアリング結果や調査結果を踏まえ、蒜山自然再生全体構想（案）を策定した。またこれらを取りまとめた報告書を作成した。

得られた成果

- ①協議会の組織化：有識者及び地域のキーパーソンについて打診を行い、おおむね賛同を得ることができた。令和3年度の早い段階での組織化を目指し、真庭市でも事務局を担う人材の確保に動いている最中である。
- ②自然環境調査：これまで散逸していた情報を集約し、地域の自然環境について取りまとめることができた。さらに自然環境を把握するために、今後も継続する必要がある。本事業を通じて連携した倉敷自然史博物館（友の会）の方や、岡山理科大学などの協力も得ながら、情報収集につとめ、自然再生のモニタリングなどに活用する。
- ③全体構想の策定：本事業により全体構想（案）を作成することができた。今後、令和3年度の早い段階で全体構想について協議会で合意を得る予定である。
また、これらの進展を受け、令和3年度は実施計画の策定に向け、さらに多くの関係者との連携を進めることとしたい。